

第6回 中国圏広域地方計画学識者等会議

第5回学識者等会議における主なご意見と対応方針

中国圏広域地方計画推進室

令和6年6月20日

主なご意見と個別対応方針

No	委員名	部	章	ページ数	行数	ご意見（修正等及びその理由等）	対応方針
1	谷口委員 （一般社 団法人中 国経済連 合会）	第1部 中国圏 の特性と 課題	第1章 「暮らし」 を取り巻 く状況の 変化	3	4	「中国圏の特性と課題」という項目について、「暮らし」を取り巻く 状況の変化 の下に 小見出しを出して 、「結局これは何」ということがわかる工夫をしていただけたらありがたい。	第1部 中国圏の特性と課題において、小見出しを追記しております。
2	鈴木委員 （山口大 学大学 院）	第2部 中国圏 の将来 像	第1章 計画の 理念	15	4	人口減少下の災害発生は地域の持続性の危機をもたらし、災害対応、復興がうまくいかないと地域消滅が加速化するため 理念に、人口減少下の災害発生・復旧に関して言及があってもよい 。保全・復活支援を盛り込むことも重要。	ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。 ・全圏域に先駆けて人口減少、少子高齢化が進行している中国圏では、地域社会の担い手が減少することで、公共交通や医療・福祉・介護など生活に不可欠なサービスの利便性の低下や、 自助、共助を担う地域防災力が低下している ほか、シャッター商店街に代表されるような中心市街地の空洞化など、地域の活力低下にも繋がっている状況にある。また、このような状況は、自然・歴史・文化の継承や国土の保全に影響を及ぼしている。 (P15 4行目)

主なご意見と個別対応方針

No	委員名	部	章	ページ数	行数	ご意見（修正等及びその理由等）	対応方針
3	高橋委員 （株式会社中国新聞社）	第2部 中国圏の将来像	第1章 計画の理念	15	12	分散型を活かすこと、災害、食料、エネルギー、さらには個人の生活の質などのポテンシャルを活かすこと、 地方のものを生かしていく書き込みが徹底的に必要。	<p>ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに中国圏は地形的な条件から平地が限られており、古くから自然との共生により人々の暮らしが成り立っていたこともあり、平地から山間部まで集落が分散する分散型の地域構造となっている。この分散型の地域構造は、既存集落の維持等のために必要な土地利用は行いつつも、郊外における無秩序な開発を抑制し、市街地における未利用地の有効利用を図るなど、市街地の空洞化を防いでいくことで、社会・経済におけるリスクの分散、ゆとり・余裕のある暮らし、国土の保全の観点から、効果的な地域構造となり得る。（P15 12行目） ・例えば、地域の課題を地域のコミュニティで解決する「小さな拠点」の形成、都市から1時間程度の郊外で自然体験・アクティビティなどの非日常を体験できること、自動車や化学薬品等の産業集積とサプライチェーンの構築、中枢中核都市での高次都市機能の集積や高度な情報発信とその享受など、つながりにより得られる効果は多く、すなわち中国圏では、人や地域資源を繋ぐことで、魅力やポテンシャルを発揮させてきたと言える。（P15 21行目） ・中国圏は中山間地域・島しょ部まで広く生活が営まれ、人と自然が共生した「里山・里海」の魅力を有することが特徴であり、それらと都市との近接性を活かし、仕事や日常の生活とともに四季折々の自然を体験できるなどの非日常がともに得られることを強みとして、人々を惹きつけ、生活の潤いと利便性の両立を図る。（P19 10行目） ・その環境づくりにおいては、地域による課題解決型の「小さな拠点」形成の取り組みなどを踏まえながら、風土・風習、地理的な一体性及び地域コミュニティをベースとした広域連携によって圏域を形成し、またその圏域の特徴・特性から相応しい生活サービス機能を提供するとともに、自然資本を中心とした地域循環の形成を、官民が連携して創造する。（P19 14行目）

主なご意見と個別対応方針

No	委員名	部	章	ページ数	行数	ご意見（修正等及びその理由等）	対応方針
4	神田委員 （呉工業 高等専門 学校）	第2部 中国圏 の将来 像	第1章 計画の 理念	15	30	<p>地理的、歴史的、産業的に際立っているもの、自然風土や過去は良かったが今は衰退したのも含めて強み・ポテンシャルを再整理して、ポジティブに評価することで、自信を持ち、理念として強調したい。</p> <p>課題を荷物として捉えるのをやめて、逆に課題にはものすごくチャンスがあるという、ポジティブな捉え方をしたい。そのあたりも含めて、先進的な課題に対して取り組むことが、地域の発展と世界の発展につながるぐらいの気概があってもいい。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。</p> <p>・人口縮小社会や2050年カーボンニュートラルに向けた課題解決先進地域としての気概を持ち、地域のあらゆるつながりの再構築・強化により発揮される「地域力」を高めることで、生活サービス機能の維持・確保と稼げる産業の創出の両輪を進めていくとともに、これらを総力戦による安全・安心確保と脱炭素・地域資源の循環によるグリーンな地域の実現によって下支えする。これらによって、中国圏の持続的な成長に向けた好循環へと転換させ、豊かで魅力ある地域につくりかえていく。（P15 30行目）</p>
5	渡邊座長 （福山市 立大学大 学院）	第2部 中国圏 の将来 像	第1章 計画の 理念	15	30	<p>計画の理念で「持続的に成長させる」と書いているが、「豊かに暮らせる中国圏」といった方向づけは必要である。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。</p> <p>・人口縮小社会や2050年カーボンニュートラルに向けた課題解決先進地域としての気概を持ち、地域のあらゆるつながりの再構築・強化により発揮される「地域力」を高めることで、生活サービス機能の維持・確保と稼げる産業の創出の両輪を進めていくとともに、これらを総力戦による安全・安心確保と脱炭素・地域資源の循環によるグリーンな地域の実現によって下支えする。これらによって、中国圏の持続的な成長に向けた好循環へと転換させ、豊かで魅力ある地域につくりかえていく。（P15 30行目）</p>

主なご意見と個別対応方針

No	委員名	部	章	ページ数	行数	ご意見（修正等及びその理由等）	対応方針
6	渡邊座長 （福山市 立大学大 学院）	第2部 中国圏 の将来 像	第1章 計画の 理念	15	30	<p>計画を作るときに課題と強みはセットであり、特に広域地方計画なので、夢がある、元気づくような計画をつくることにチャレンジしてもいいのではないかと。中国圏こんないいところだからみんな来て、活躍してほしいということにもつながってくる。課題は課題として認識しなければいけないが、中国圏は良さを打ち出す必要がある。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。</p> <p>・人口縮小社会や2050年カーボンニュートラルに向けた課題解決先進地域としての気概を持ち、地域のあらゆるつながりの再構築・強化により発揮される「地域力」を高めることで、生活サービス機能の維持・確保と稼げる産業の創出の両輪を進めていくとともに、これらを総力戦による安全・安心確保と脱炭素・地域資源の循環によるグリーンな地域の実現によって下支えする。これらによって、中国圏の持続的な成長に向けた好循環へと転換させ、豊かで魅力ある地域につくりかえていく。（P15 30行目）</p> <p>・人と自然が共生する「里山・里海」を始め、美しく豊かな自然環境と多様な歴史・文化を有した、分散型の地域構造であるという中国圏ならではの魅力やポテンシャルを活かし、真に豊かさを感じられる暮らしを実現する。（P16 17行目）</p> <p>・中国圏が強みとするものづくり産業を中心に生産性向上を図り、瀬戸内海沿岸地域の産業クラスターやコンビナートなどの集積を活かして、持続的な成長と国際競争力の強化を実現する。また、グローバルサプライチェーンの安定化・効率化にむけた課題や、国内複合一貫輸送網の機能強化に向けた課題に取り組むとともに、革新的なビジネスモデルによって社会にイノベーションをもたらすスタートアップを創出・育成し、新たな産業振興による持続的な成長を目指す。（P16 33行目）</p> <p>・「世界の宝石」とも称される瀬戸内海を始めとする圏域特有の自然や、中国圏の風土に根ざした多様な歴史・文化などの魅力を活かし、唯一無二の体験・交流ができるよう、デジタル技術も活用しながら、国内外の多くの人々が滞在する圏域を目指す。（P17 8行目）</p> <p>・気候変動の原因となる温室効果ガスの排出量を減らす地球温暖化緩和策と気候変動の影響による国土への様々な被害を回避・軽減させる気候変動適応策を推進し、最適な国土の利用・管理等とあわせ、自然環境や生態系を保全する。さらに、中国圏の強みである分散型の地域構造を活かし、人と自然が共生した新たな循環型社会を形成することで、自立・分散型の持続可能な圏域を実現する。（P17 39行目）</p>

主なご意見と個別対応方針

No	委員名	部	章	ページ数	行数	ご意見（修正等及びその理由等）	対応方針
7 8	渡邊座長 （福山市 立大学大 学院） 氏原委員 ・ （岡山大 学大学 院）	第3部 中国圏 における 基本戦 略と目標	第1章 「誰もが 自らの意 思でライ フスタイル を選択で き、生き 活きと暮 らし続け ることが できる中 国圏」に 向けた基 本戦略と 目標	19	10	<p>地域生活圏のところは、もう少しリアルな感覚を持って書いたほうがいい。日常的に来るわけではなく、交流人口にも近いが、そういった頻度の高い行動圏が中国圏ではあり得る。そういう意味でのつなぎ方、日常的なつながり、非日常的だけど頻度の高いつながりがあるといい。今の動きに加えて、これから起きそうな動きも含めて生活圏や行動圏を考え、計画の中に位置づけていければよい。 （渡邊座長）</p> <p>地域生活圏形成の話は具体的に数字を持って説明されていてわかりやすい。ただし、拠点の部分についてはイメージできた一方で、その拠点をつなぐ部分が「回廊」「ネットワーク」という言葉で使われていたが、現時点では少し弱い印象。 拠点と拠点とのつなぎ方を、きちんと整備していれば拠点は維持されるため、道路をどうするか、鉄道をどうするか、瀬戸内海でいうと航路をどうするか、あとはオンラインでどうするかという部分に対してどう拠点と拠点をつないでいくのかを明確に書いていただきたい。 （氏原委員）</p>	<p>ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国圏は中山間地域・島しょ部まで広く生活が営まれ、人と自然が共生した「里山・里海」の魅力を有することが特徴であり、それらと都市との近接性を活かし、仕事や日常生活とともに四季折々の自然を体験できるなどの非日常がともに得られることを強みとして、人々を惹きつけ、生活の潤いと利便性の両立を図る。（P19 10行目） 中国圏の持続可能な暮らしの創造に向けて、分散型の地域構造を踏まえ、「中枢中核都市を核とした広域圏」と「小さな拠点を核とした集落圏」をつなぐ「人口10万人程度以上の地域生活圏」に加え、中国圏の実情に応じた3～10万人程度の地域生活圏（中間領域）を設定し、道路、鉄道、港湾、空港等がそれぞれの特性に応じて役割分担した質の高い交通やデジタルのネットワーク強化により、4層構造で機能を相互補完できる圏域を形成する。（P25 8行目） 広域圏の核となる中枢中核都市においては、都道府県境を越える広域レベルの高次の生活・経済圏を形成するため、中国圏の自立的発展を牽引する拠点として、広域交通ネットワークのハブ拠点、中国圏の経済を牽引する中核となるサービス産業、高等教育・研究機関、イノベーション創出の中心となる知的対流拠点、高度医療機関等の高次な都市機能の集積・強化を図る。（P25 13行目） 都市部においては、当該地域のみならず、その周辺地域の暮らしの支えも担えるよう、買い物、医療、教育等の生活サービス拠点としての都市機能強化を図り、賑わいや交流の拠点となる都市空間を整備する。（P25 17行目） 中山間地域や島しょ部においては、地域公共交通や買い物、医療・福祉・介護等の生活サービス機能を維持・確保するため、地域が考え課題解決に取り組む「小さな拠点」形成などを一層展開するとともに、それら機能確保においては、デジタル技術を活用し、必要な時、必要な場所でサービスの提供を可能にするなどの取組を推進し、里山・里海などの暮らし・産業と四季折々の自然とが調和した地域づくりを推進する。（P25 20行目） 分散型の地域構造を踏まえ、地域課題、コミュニティ、地域資源等の分布に応じた市町村界や人口規模に捉われない新たな発想からの地域生活圏の形成について、「活躍人口」の創出も含め、今後の地域間のつながりの変化も見据えながら推進方策を検討する。（P25 34行目）

主なご意見と個別対応方針

No	委員名	部	章	ページ数	行数	ご意見（修正等及びその理由等）	対応方針
7 8	渡邊座長 （福山市 立大学大 学院） 氏原委員 ・ （岡山 学大学 院）	第3部 中国圏 における 基本戦 略と目標	第1章 「誰もが 自らの意 思でライ フスタイル を選択で き、生き 活きと暮 らし続け ることが できる中 国圏」に 向けた基 本戦略と 目標	19	10	<p>地域生活圏のところは、もう少しリアルな感覚を持って書いたほうがいい。日常的に来るわけではなく、交流人口にも近いが、そういった頻度の高い行動圏が中国圏ではあり得る。そういう意味でのつながり、日常的なつながり、非日常的なつながり、頻度の高いつながりがあるといい。今の動きに加えて、これから起きそうな動きも含めて生活圏や行動圏を考え、計画の中に位置づけていければよい。（渡邊座長）</p> <p>地域生活圏形成の話は具体的に数字を持って説明されていてわかりやすい。ただし、拠点の部分についてはイメージできた一方で、その拠点をつなぐ部分が「回廊」「ネットワーク」という言葉で使われていたが、現時点では少し弱い印象。</p> <p>拠点と拠点とのつながりを、きちんと整備していれば拠点は維持されるため、道路をどうするか、鉄路をどうするか、瀬戸内海でいうと航路をどうするか、あとはオンラインでどうするかという部分に対してどう拠点と拠点をつないでいくのかを明確に書いていただきたい。（氏原委員）</p>	<p>道路、鉄路、航路、空路、オンラインでの具体的なつながり方についてはそれぞれ以下の通り記載しております。</p> <p>【道路】・圏域内外の対流をシームレスに繋ぐ広域的かつ重層的な交通ネットワークを形成していくため、日本海側・瀬戸内側二面活用や三海二山の南北連携からなる「西日本回廊ネットワーク」の形成を図るとともに、圏域内の中枢中核都市や複数の都市間・拠点間移動の機能高質化に資するミッシングリンクの解消や暫定2車線区間の4車線化など、格子状ネットワークの形成に向けて山陰道等の高規格道路の整備を推進する。（P29 7行目）</p> <p>【鉄路】・また、地域公共交通の「リ・デザイン」の観点を踏まえ、分野の垣根を越えた共創や交通DX・GXの推進により、地域における多様な交通ネットワークの機能強化を図るとともに、公共交通の維持・確保を推進する。（P29 12行目）</p> <p>・公共交通ネットワークの維持・確保に向け、バス路線、定期航路等の再編、鉄道路線等の延伸・拡充、公共交通ネットワークの担い手不足への対応、地方鉄道の再構築の取組などを推進する。（P29 37行目）</p> <p>【航路】・島しょ部における持続可能な暮らしの創造と、圏域間交通の利便性を確保するため、国内航路の維持・拡充を図るとともに、港湾機能の強化とアクセスの強化を図る。（P29 32行目）</p> <p>・公共交通ネットワークの維持・確保に向け、バス路線、定期航路等の再編、鉄道路線等の延伸・拡充、公共交通ネットワークの担い手不足への対応、地方鉄道の再構築の取組などを推進する。（P29 37行目）</p> <p>【空路】・国際航空便利用の促進、国際チャーター便の誘致促進など、空港機能強化のために必要な整備を推進するとともに、国際航路の維持・拡充を図り、港湾機能及び国際交通機能を強化する。（P31 6行目）</p> <p>・コロナ禍で激減したインバウンドや国内旅客の回復を受け、圏域内の空港の安全・安心を確保するため、滑走路端安全区域の整備等を実施するとともに、滑走路等の基本施設と航空旅客ターミナルビルを一体的に経営することにより効率的な運営を行い、航空ネットワークの充実・強化や地域の活性化を図る。（P36 15行目）</p> <p>【オンライン】・さらに、災害に対する情報通信ネットワークの強靱化等の観点や地方の活性化、地域の課題解決に向けた取組を支えるため、光ファイバ、5G、6G、データセンター、海底ケーブル、分散型サーバーなど、デジタルインフラの整備を促進する。（P26 13行目）</p> <p>・遠隔医療を活用した地域医療の確保に向けた取組を推進するとともに、遠隔・オンライン教育を活用した質の高い教育環境を提供する。また、自動運転車両・自動運航船・ドローン配送・空飛ぶクルマの社会実装に向け、多様なモビリティが共存する走行環境の構築等の取組を推進する。（P27 39行目）</p>

主なご意見と個別対応方針

No	委員名	部	章	ページ数	行数	ご意見（修正等及びその理由等）	対応方針
9	大島委員 （一般社団法人データクレイドル）	第3部 中国圏における基本戦略と目標	第1章「誰もが自らの意思でライフスタイルを選択でき、生き活きと暮らし続けることができる中国圏」に向けた基本戦略と目標	19	18	また、計画の中で散らばっている「選択」という言葉がいいと思う。それぞれの人が自分の条件とか環境によって選べるのがウェルビーイングであり、一番豊かである。これが豊かであると与えられるものではなくて、 それぞれの人が自分で選ぶ、住民側の主体性がもう少し出るといい。	ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。 ・誰もが日常生活に必要なサービス機能を楽しむことに加え、 生活と仕事と遊びが圏域内で完結 できることにより、個性的で魅力的なQOLの高い地方での暮らしを実現させ、 多様な価値観やライフスタイルのニーズに応える 地域生活圏の形成を図る。（P19 18行目） ・都市や農村に関わらず、生活サービス機能などをリアルに享受できる環境づくりを推進するとともに、地域の魅力や特徴を活かすためデジタル技術を積極的に活用しながら、官民連携により、どこでも便利で快適に暮らし続けることができ、 自らの意思でライフスタイルを選択できる地域生活圏の形成を目指す。 （P19 34行目）
10	大島委員 （一般社団法人データクレイドル）	第3部 中国圏における基本戦略と目標	第1章「誰もが自らの意思でライフスタイルを選択でき、生き活きと暮らし続けることができる中国圏」に向けた基本戦略と目標	19	21	活躍人口というより、新たにつくるといよりは圏域内外のみんなが役割を持つというニュアンスであり、互いに刺激を受けながら、 フルで活躍しなくても、いま暮らし続ける人がその地域でそれぞれ思いと役割を持っていく。 計画の中では施設や地域資源をつなげていく話もあるが、人の役割や人の立場をつなげていく話もある。	ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。 ・その担い手として、魅力的な住生活環境や雇用環境などを整備するとともに、関係人口を拡大・深化させる取組やUIターン促進を図り、 可能な範囲でそれぞれが役割を持ち、地域と連携しながら地域課題解決を進める「活躍人口」を創出 する。（P19 21行目） ・移住・定住、副業・兼業、二地域居住等を支援する取組を強化するとともに、 大都市圏等へ田舎暮らしの魅力について情報発信 を行う。また、 地域とつながりを持つ機会を増やし、体験機会の醸成を図ることで、中国圏のファンづくりを推進 する。加えて、 オンラインを活用した関わりの形成 を促進する。（P28 8行目） ・移住・定住、副業・兼業、二地域居住等を支援する取組と並行して、空き家廃校舎等の活用施策の促進など、利用しやすい サテライトオフィス・コミュニティスペースの整備を促進 する。（P28 18行目） ・デジタルを活用した地域のニーズの情報発信や関係人口マッチングの支援、関係人口の活動の見える化など、 オンライン上での場づくりを推進 する。（P28 22行目） ・ 関係案内人・中間支援組織を支援する取組 を推進するとともに、関係案内人を育成するプログラムの整備を促進する。（P28 27行目）

主なご意見と個別対応方針

No	委員名	部	章	ページ数	行数	ご意見（修正等及びその理由等）	対応方針
11・12	齋藤委員 (山口大学) 渡邊座長 (福山市立 大学大学院)	第3部 中国圏に おける基 本戦略と 目標	第1章 「誰もが 自らの意 思でライフ スタイルを 選択でき、 生き生き と暮らし続 けることが できる中 国圏」に 向けた基 本戦略と 目標	19	21	<p>活躍人口のところで、活躍できる人が増える場づくりという観点もぜひ入れていただきたい。（齋藤委員）</p> <p>閉鎖的な社会だとなかなか活躍できないということもありそうであるため、オープンで、フラットな場づくりは確かに必要だと強く思った。（渡邊座長）</p>	<p>ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。</p> <p>・その担い手として、魅力的な住生活環境や雇用環境などを整備するとともに、関係人口を拡大・深化させる取組やUIJターンの促進を図り、可能な範囲でそれぞれが役割を持ち地域と連携しながら地域課題解決を進める「活躍人口」を創出する。（P19 21行目）</p> <p>・移住・定住、副業・兼業、二地域居住等を支援する取組を強化するとともに、大都市圏等へ田舎暮らしの魅力について情報発信を行う。また、地域とつながりを持つ機会を増やし、体験機会の醸成を図ることで、中国圏のファンづくりを推進する。加えて、オンラインを活用した関わりの形成を促進する。（P28 8行目）</p> <p>・移住・定住、副業・兼業、二地域居住等を支援する取組と並行して、空き家、廃校舎等の活用施策の促進など、利用しやすいサテライトオフィス・コミュニティスペースの整備を促進する。（P28 18行目）</p> <p>・デジタルを活用した地域のニーズの情報発信や関係人口マッチングの支援、関係人口の活動の見える化など、オンライン上での場づくりを推進する。（P28 22行目）</p> <p>・関係案内人・中間支援組織を支援する取組を推進するとともに、関係案内人を育成するプログラムの整備を促進する。（P28 27行目）</p>

主なご意見と個別対応方針

No	委員名	部	章	ページ数	行数	ご意見（修正等及びその理由等）	対応方針
13	谷口委員 （一般社 団法人中 国経済連 合会）	第3部 中国圏 における 基本戦 略と目標	第2章 「産業集 積や地 域資源 を活かし、 官民連 携によっ て持続 的に成 長する中 国圏」に 向けた基 本戦略と 目標	20	24	国土交通省以外、 他省庁の政策が、計画への記載が少ない 様に見える。特に、人口減少の中で様々な主体と連携すべきことが増えるが、そのときに国の行政機関の方針は重要である。それらを計画に盛り込んでいただきたい。	<p>国土交通省以外の他省庁の政策については、下記のように記載しています。</p> <p>【内閣府・内閣官房】 ・デジタル田園都市国家構想に基づくデジタルの実装を推進（P26 9行目） ・デジタル田園都市国家構想総合戦略等と連携・整合して計画の推進を図るとともに、県や市町村の国土強靱化地域計画やデジタル田園都市国家構想総合戦略（地方版総合戦略）、総合計画等の各種長期計画と連携して一体的な推進を図る（P46 35行目）</p> <p>【経済産業省】 ・「グリーン成長戦略」で成長が期待される再生可能エネルギー、自動車、船舶、半導体などの14分野の成長を後押しする政策を重点的に推進する（P20 24行目） ・自動車産業、造船・船用工業、半導体産業や再生可能エネルギーなど「グリーン成長戦略」で成長が期待される分野のGXを推進する（P31 15行目）</p> <p>【農林水産省】 ・農村型地域運営（農村RMO）や地域循環共生圏の形成とも連携しながら、持続可能な圏域を形成（P25 26行目） ・農村RMO等の地域運営組織の形成など、地域の連携基盤の活用・形成による推進主体・体制を確保する（P26 2行目） ・複数集落を対象とした農用地の保全管理や地域資源の活用、生活支援を集約的に担う農村型地域運営組織（農村RMO）との連携を図る（P27 23行目） ・6次産業化による高付加価値商品の開発を進める。（P34 14行目）</p>

主なご意見と個別対応方針

No	委員名	部	章	ページ数	行数	ご意見（修正等及びその理由等）	対応方針
13	谷口委員 （一般社 団法人中 国経済連 合会）	第3部 中国圏 における 基本戦 略と目標	第2章 「産業集 積や地 域資源 を活かし、 官民連 携によっ て持続 的に成 長する中 国圏」に 向けた基 本戦略と 目標	20	24	国土交通省以外、 他省庁の政策が、計画への記載が少ない様に見える 。特に、人口減少の中で様々な主体と連携すべきことが増えるが、そのときに国の行政機関の方針は重要である。それらを計画に盛り込んでいただきたい。	国土交通省以外の他省庁の政策については、下記のように記載しています。 【総務省】 ・光ファイバ、5G、6G、データセンター、海底ケーブル、分散型サーバーなど、 デジタルインフラの整備 を促進（P26 13行目） ・ 連携中枢都市圏 や 定住自立圏 においても、デジタルを活用した取組の充実を通じ、圏域の更なる発展に向けて取組内容を深化させる他、民の力を最大限活用すべく官民連携の視点をより強化して地域課題の解決に取り組んでいく（P27 12行目） 【環境省】 ・加えて、 3R + Renewable の考え方を踏まえ、Reduce（廃棄物の発生抑制）・Reuse（再使用）・Recycle（再資源化）の推進や Renewable（再生可能な素材への変更）によって、環境負荷の低減を図ることも求められている。（P24 7行目） ・農村型地域運営（農村RMO）や 地域循環共生圏の形成 とも連携しながら、持続可能な圏域を形成（P25 26行目） ・ネイチャーポジティブに向けた 30by30目標の達成 等による健全な生態系の保全・再生（P40 9行目） ・自然環境の多面的な機能を活用した グリーンインフラの社会実装 や 生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR） 等の取組を推進する。（P41 7行目）

主なご意見と個別対応方針

No	委員名	部	章	ページ数	行数	ご意見（修正等及びその理由等）	対応方針
14	谷口委員 （一般社 団法人中 国経済連 合会）	第3部 中国圏 における 基本戦 略と目標	第2章 「産業集 積や地 域資源 を活かし、 官民連 携によっ て持続 的に成 長する中 国圏」に 向けた基 本戦略と 目標	21	1	産官学の連携がこれからますます重要となる中で、特に 大学との連携は産業界、経済界として非常に重視しているため、計画に盛り込んでいただきたい。	大学を始めとした産官学の連携の取組については、下記のように記載しています。 ・圏域内外の大学や研究機関、金融機関等との連携や多分野間の連携 を促進させることで、より一層のイノベーションを推し進め、スタートアップ・エコシステムを構築するとともに、付加価値の高い製品やサービスを提供する「稼ぐ力」を強化する。（P21 1行目） ・近畿圏と九州圏の中間に位置し、人・モノ・カネ・情報の大きな交流や豊かな自然資源を保有する中国圏だからこそ、大学や研究機関・産業の集積からなる技術力を活かし、それらの連携を強化・イノベーションの積極的誘発 により、スタートアップの創出・育成を推進する「スタートアップ・エコシステム」の確立を図り、次世代を牽引する新たな産業創出を図る。（P31 27行目）
15	谷口委員 （一般社 団法人中 国経済連 合会）	第3部 中国圏 における 基本戦 略と目標	第2章 「産業集 積や地 域資源 を活かし、 官民連 携によっ て持続 的に成 長する中 国圏」に 向けた基 本戦略と 目標	21	12	特に地方では、人材不足の中で、 外国人材の活躍促進 が非常に大きな論点になってくるため、 計画に盛り込んでいただきたい。	外国人材の受入環境の拡大や活躍支援については、下記のように記載しています。 ・そこで、女性・若者・高齢者・外国人等が活躍できる環境づくり によって「活躍人口」などの新たな担い手を創出するとともに、地域の資源が持つ力を最大限発揮させる産業創出により地域振興を図る。（P21 12行目） ・さらに、地域産業を維持するため、外国人の多様な就労環境の整備を図るとともに、居住にも対応した教育・医療等の受入環境の整備 を図り、外国人住民を対象とする調査・研究や情報発信を推進する。（P28 39行目） ・外国人観光客の受入環境の充実化 を図る（P35 41行目）

主なご意見と個別対応方針

No	委員名	部	章	ページ数	行数	ご意見（修正等及びその理由等）	対応方針
16	森委員 (島根大学)	第3部 中国圏 における 基本戦略 と目標	第2章 「産業集積 や地域資源 を活かし、 官民連携 によって持 続的に成長 する中国圏 」に向けた 基本戦略と 目標	21	12	<p>昨今、特に農学系学部においては、中国や東南アジア、西アジアの方が非常に多い状況であるが、日本で働きたくても就職先が決まらないという現状がある。そういう方たちが就職できるような、支援するような何らかシステムができると非常にいい。</p>	<p>外国人材の受入環境の拡大や活躍支援については、下記のように記載しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そこで、女性・若者・高齢者・外国人等が活躍できる環境づくりによって「活躍人口」などの新たな担い手を創出するとともに、地域の資源が持つ力を最大限発揮させる産業創出により地域振興を図る。(P21 12行目) ・さらに、地域産業を維持するため、外国人の多様な就労環境の整備を図るとともに、居住にも対応した教育・医療等の受入環境の整備を図り、外国人住民を対象とする調査・研究や情報発信を推進する。(P28 39行目) ・外国人観光客の受入環境の充実化を図る (P35 41行目)
17	高橋委員 (株式会社中国新聞社)	第4部 中国圏 における 主要な 施策 (プロジェクト・ 施策)	第1章 広域連 携プロ ジェクト	25	13	<p>広島都市圏や中枢中核都市の議論として、いわゆる人口ダム機能がきかなくなっているという危機感がある。最初は20代の女性だったが、今年の統計を見ると男性も相当流出している。一つ産業構造の転換という中で、強みを生かしたイノベーション的なものが欲しい。例えば、グリーン国土が、単に環境保全とか自然を守ろうという意味ではなく、そのレベルを脱して、中国圏が持っているポテンシャルを経済的にも次の儲けどころとしていくといった明るい発想が欲しい。種もないのに言えないが、そういった意味での中枢中核都市がない。活躍人口を輩出する拠点は欲しいということをつけ加えたい。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域圏の核となる中枢中核都市においては、都道府県境を越える広域レベルの高次の生活・経済圏を形成するため、中国圏の自立的発展を牽引する拠点として、広域交通ネットワークのハブ拠点、中国圏の経済を牽引する中核となるサービス産業、高等教育・研究機関、イノベーション創出の中心となる知的対流拠点、高度医療機関等の高次な都市機能の集積・強化を図る。(P25 13行目)

主なご意見と個別対応方針

No	委員名	部	章	ページ数	行数	ご意見（修正等及びその理由等）	対応方針
18	田中委員 （島根県立大学）	第4部 中国圏における 主要な 施策 （プロジェクト・ 施策）	第1章 広域連 携プロ ジェクト	28	18	<p><u>移動さえしやすくなれば、空き家が安いので、何軒も空き家を持って、自分で改修して、自分の人生の表現の場にする</u>といった、<u>一歩先のライフスタイルが、中国地方だからこそできる</u>し、国交省の出番でもある。そのあたりをもう少し意識してもらえると、より中国地方らしい計画となると思う。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。</p> <p><u>・移住・定住、副業・兼業、二地域居住等を支援する取組</u>と並行して、<u>空き家、廃校舎等の活用施策の促進</u>など、<u>利用しやすいサテライトオフィス・コミュニティスペースの整備を促進</u>する。（P28 18行目）</p>